

今年のレンタカウを振り返って

今年は、4月から11月にかけて、北は京丹後市から南は京都市内まで、7地区で14頭のレンタカウが活躍しました。

牛を放牧することで、草刈り等の手間が省けるだけでなく、獣害対策にも有効であり、また、小学生による観察会が開かれたり、報道機関により紹介されるなど、地域の活性化にも役立っています。

特に、京都市大枝地区では、特産物である柿生産農家の猿害対策として初めて取り組まれ、たいへん好評でした。



京丹後市久美浜町での牛の観察会

畜産技術センター
碓高原牧場